

令和3年度 津志田つばさ園自己評価チェックリスト

令和4年3月

(20人に配布～回収19人)

〈子どもの発達〉

- | | |
|--|---------|
| 1 乳幼児期は、生涯にわたる「生きる力」の基礎が培われる時期であることを理解して、保育を実践していますか | はい 100% |
| 2 子どもの発達は、豊かな心情、意欲、態度を身につけ新たな能力を獲得していく過程であることを理解していますか | はい 100% |
| 3 子どもの発達の特性や発達過程を理解し、「発達の連続性」に配慮して保育していますか。 | はい 100% |
| 4 子どもと生活や遊びを共にする中で、一人一人の子どもの心身の状態を把握していますか | はい 100% |
| 5 子どもの情緒を安定させ、人への信頼感を育てるために、一人一人の子どもを愛し、信頼していますか | はい 100% |
| 6 子どもは様々な環境との相互作用により発達していくことを理解していますか | はい 100% |
| 7 子どもが興味や関心を示し、自発的に働きかけができるように身近な環境を整えていますか | はい 95% |
| 8 子どもが主体的に関わる環境を用意していますか | はい 74% |
| 9 子ども同士の関係の基盤となるように、あなたは一人一人の子どもと信頼関係を構築していますか | はい 95% |
| 10 心身の発達の個人差を理解するために、一人一人の生理的、身体的な諸条件や生育環境の違いを把握していますか | はい 89% |
| 11 仲間との関係の中で「個」の成長も促すことを意識して、遊びを展開させていますか | はい 89% |
| 12 豊かな感性と共に好奇心、探求心や思考力が養われるよう保育を工夫していますか | はい 84% |
| 13 発達過程区分は同年齢均一的な発達の基準ではなく、一人一人の子どもの発達課程として捉えていますか。 | はい 100% |
| 14 発達課題のある子どもに対しても、子ども自身の力を十分認め、適切な援助及び環境構成を行っていますか。 | はい 84% |
| 15 保育園の生活になじみにくい子どもに対しても、一人一人に応じた適切な援助及び環境構成を行っていますか | はい 89% |

〈養護〉

- | | |
|---------------------------------|--------|
| 1 指導計画や記録には、いつも養護面の配慮が記載されていますか | はい 95% |
|---------------------------------|--------|

- 2 一人一人の子どもの生理的欲求が十分に満たされるよう配慮していますか はい 95%
- 3 登園児の子どもの健康観察を行っていますか はい 95%
- 4 子どもが触れたりする物や場所など、衛生的な環境を保てるように常に気を配っていますか はい 100%
- 5 子どもが自分の場を確保できるような配慮をしていますか はい 100%
- 6 いつでも安心して休息できる雰囲気やスペースを確保していますか はい 84%
- 7 子どもが何を求めているか、いつも思いをめぐらせていますか はい 100%
- 8 子どもとの温かいやり取りやスキンシップを常に心がけていますか はい 95%
- 9 子ども一人一人に分かりやすい温かな言葉で、穏やかに話しかけていますか はい 100%
- 10 子どもが不安になった時にいつでも支えられるよう、一人一人を視野に入れていきますか はい 89%
- 11 「早くしましょう」などせかす言葉を不用意に使わないで、状況や一人一人に合わせた対応を心がけていますか はい 84%
- 12 「だめ」「いけません」など制止する言葉を不用意に用いないようにしていますか はい 84%
- 13 「待ってて」「あとで」など言わずに、なるべくその場で対応するようにしていますか はい 74%
- 14 「できない」「やって」などと言ってくるとき、その都度気持ちを受け止めて対応していますか はい 100%
- 15 「いや」などと、駄々をこねる子どもの気持ちを汲み取ろうとしていますか はい 100%
- 16 登園時、泣く子どもに対して、放っておいたり、叱ってしまうことがないようにしていますか はい 100%

17 登園時、子どもの状況に応じて、抱いたり、優しく声を掛けたりして
いますか

はい 100%

まとめ（考察）

○ 「子どもの発達」8 「子どもが主体的に関わる環境を用意しているか」

主体的な環境とは具体的にどのような環境か、職員と今一度、意見交換するなど話し合い、考えを共有することが必要ではないか。

例えば

※子どもが主体的に活動するためには、環境がどのように構成されるかで左右される。環境とは物的・人的・自然的環境等様々なものをいう。環境構成とは様々な環境条件を相互に連携させながら発達に必要な経験を積んでいくことができるような状況を作り出すこと。

- ・安心安全が得られる環境
- ・興味や関心を持ち、思わず関わりたくなる環境
- ・試行錯誤を繰り返すことができる環境

子どもたちなりの表現を大切にし、発想や意欲を大事に受け止め、「やってみたい」という意欲や「楽しかった」という充実感を味わわせることができる環境の用意。

○ 「養護」11・12・13・14

「早くしましょう」「だめ」「いけません」「待ってて」「あとで」の言葉

不用意に使っているのであれば、反省や意識が必要であるが、状況によっては用いなければならない場面もある。一人一人に合わせた優しいトーンでの言葉がけや〇〇だから少し待っててね」など具体的に理解させ、安心させることが必要。

子どもの気持ちを汲み取りながら、安心できる言葉を掛けてあげましょう。